



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学術情報の発信に関するアンケート調査報告書
Author(s)	附属図書館 情報ポータルワーキンググループ アンケート調査班
Issue Date	2005-01-06T02:52:08Z
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/301
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	report
File Information	syukei_max.pdf



学術情報の発信に関するアンケート調査
報告書

2005年1月6日

附属図書館学術情報ポータルワーキンググループ
アンケート調査班

調査方法について

調査期間を平成16年11月29日(月)～12月10日(金)とし、本学全教員(助手以上 2142名)宛に、11月26日、学内便で送付した。送付内容は下記の4種類4枚。ほかにPR用ポスターを2種類100枚ずつ作成した。内容は末尾の別紙参照。教員の情報(氏名・所属・身分)は人事課からデータの提供を受けた。

依頼文書 : 文書番号をとって館長名で作成
アンケート用紙: 提出が簡易なように両面印刷一枚

参考資料 : 用語解説と参考文献
説明資料 : カラー両面印刷

スケジュール

10月28日	ポータルWGでアンケート調査班結成(首藤・川村・糸林・小坂・高野・堀越・三浦・鈴木)
↓	検討(さらに班分けして検討・準備した)
11月22日	印刷に出す(アンケート用紙・同封資料・ポスター) 北大印刷
11月25日	印刷物納品
11月26日	A4封筒2142枚に宛名ラベルを貼り、袋詰め作業を行う 各部局長、部局図書室に協力依頼の文書送付(各部局長宛にはポスターを同封し掲示を同時に依頼) 15時の学内便(と翌月曜の午前中の便)で全教員宛にアンケートが送付された 3チームに分かれて部局図書室にポスターを持って掲示と協力依頼の挨拶回りを行った
11月29日	ホームページのトップにお知らせ掲載(Webの回答フォームへのリンク)
↓	調査期間
12月10日	部局図書室に提出された解答用紙の回答は学内便でシステム課に送付(事務用フォームを別に作成し順次入力)

調査結果についての概要

平成16年12月20日現在で 508枚回収。このうち教員からは466枚で、回収率は22%であった。次ページからの集計は、教員の回答466を元に集計・分析した。(ポスター横においたアンケート用紙による院生・学生等からの回答(42枚)は参考資料とした。)

なお、アンケート依頼用紙、ポスター、Web上に問い合わせ先を明示したが、メール・電話ともに1件もなかった。

各設問に対する回答の概要

Q1: 72%の方が電子化された学術情報を持っていた。「商業誌・学会誌に掲載された論文」は「外部のサイトから公開している」場合が最も多いのに対し、他の学術情報は「公開していない」割合が最も高かった。データ形式は、77%がPDFで、次にHTMLとMS Wordが多かった。

Q2: 「オープンアクセス」については、11%の方が「賛同しすでに実践している」という回答だった。「賛同するが実践はしていない」54%、「機会があれば実践したい」26%を合わせると、**91%の方がオープンアクセスの意義を認めている。**

Q3: 学術機関リポジトリについては、**70%の方が「賛同するので登録したい」と**の回答だった。「賛同するが登録したくない」が14%、「賛同できない」が3%、「その他」が13%だった。

Q4: リポジトリに登録したい理由は、「**研究成果等をより多くの人に公開できるから**」が最も多く、回答者の91%が選択した。次いで「研究・教育資源の共有化に有効だから」が61%、「可視性が上がり論文等の被引用率が高くなるから」が51%。一方、リポジトリに登録したくない理由は、ほぼまんべんなく選択された。

Q5: green publisherには**58%の方が「発表したことがある」と**の答えで、発表したことがある出版社では、Elsevierが群を抜いて最も多く、発表したことがある方の83%が挙げた。

その他: もう少し意見を伺うために図書館から**連絡してもよいかとの問に対し「はい」と答えた方が 164人**いた。

意見の概要

・「登録して情報発信してもいいが、自分の選んだものだけの発信に限定したい。(利用者の悪用を考慮すべき)」「賛同するが、登録できる情報と登録できない情報がある」「自信を持って公表に値する情報は、主に査読を受け学術論文誌に掲載された論文になる」「最新のデータは論文化や特許など壁があってふんぎれない」という意見が多かった。

・「その内容をきちんと評価する第三者のreviewを受けたもののみが、公開されるべき」「内容についてのcheck機関がないと、発信者の都合の良い情報のみが出され、学術データの捏造等のトラブルを促進する為」という意見が目立った。

・「賛同するが「登録が面倒なものでないことが条件」、「著作権をクリアする手続きを自身がするのはめんどりで、そこまでして公開したくない」、「滞りなく情報が登録されるかどうかは手順の煩雑さの程度やサポート体制の有無による」という意見があった。

・「現時点では判断できない」、「詳細次第」「学会や商業出版社の利益を損なうのではないか」という意見も多かった。

・既にOAを実践している先生から、「こうした活動は一見してあまり効果がないように見えますが、2,3年前と比べて最近では、国内のみならず、外国からも論文の問い合わせが格段に増えました。また、作成している講義ノートにしても、こちらが想像する以上に学外の方に様々な形で使われているようです。このような事実を考えると、長い目でみればこうした営みは大学のアクティビティとして評価すべきであると考えます。MITのOpen Course Wareのようにまではないかなくとも、まずはできる教員から率先して自分の研究・教育活動を外に発信していくことが重要ではないでしょうか。」という意見があった。

まとめ

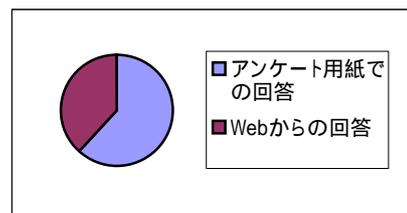
機関リポジトリについては、査読済の学術論文を登録していくのが良いのではないかと。登録に関しては図書館がかなりサポートする必要がある。協力者の先生を探すという目的の足がかりは達成できた。こちらからご意見を伺って協力を依頼することが重要であろう。また、さらなるPRをおこない、理解を求めていくことが必要であろう。

情報の発信に関するアンケート調査(分析) * 回収状況 *

回収状況(全体)

	回答数
教員	466
その他	42
	508

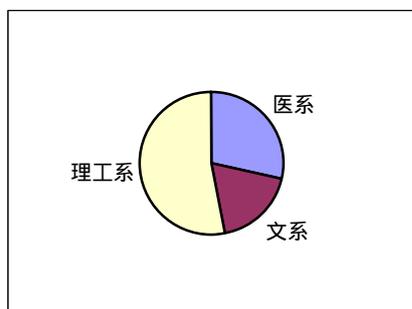
	回答数	割合
アンケート用紙での回答	313	61.6%
Webからの回答	195	38.4%
合計	508	100.0%



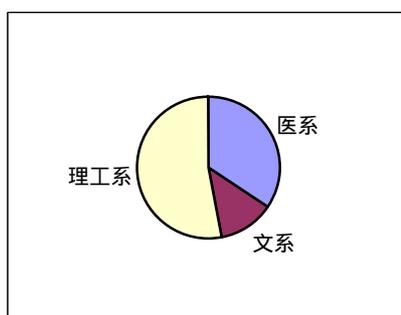
回収状況(分野別)

	配布数	割合
医系	612	28.6%
文系	393	18.3%
理工系	1137	53.1%
全体	2142	100.0%

	回答数	割合	配布数に対する割合
医系	160	34.3%	26.1%
文系	59	12.7%	15.0%
理工系	247	53.0%	21.7%
全体	466	100.0%	21.8%



配布した割合

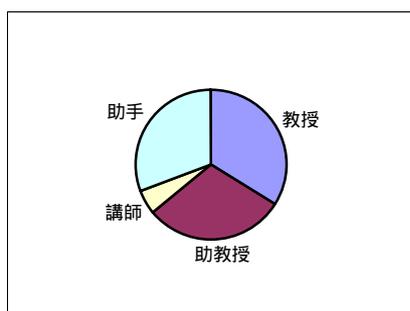


回答の割合

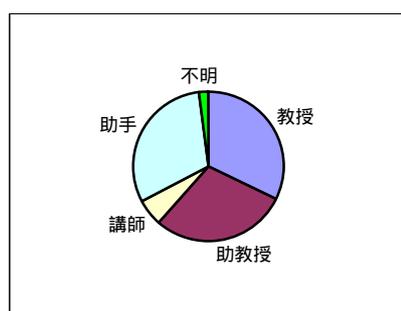
回収状況(身分別)

	配布数	割合
教授	724	33.8%
助教授	646	30.2%
講師	114	5.3%
助手	658	30.7%
合計	2142	100.0%

	回答数	割合	配布数に対する割合
教授	150	32.2%	20.7%
助教授	136	29.2%	21.1%
講師	27	5.8%	23.7%
助手	144	30.9%	21.9%
不明	9	1.9%	
合計	466	100.0%	



配布した割合



回答の割合

回収状況について

- ・教員から466件の回答があり、約22%の回収率であった。以下、この466件を元に分析を行う。
- ・上記のほか、大学院生・学部学生(36件)、ポスドク、研究生、研究員等42件の回答があった。
- ・回収状況を分野別(*注1)で見ると、文系が少なめで医系が多め、理工系は配布した割合とほぼ変わらない。
- ・回収状況を身分別で見ると、教授・助教授がやや少なく、講師・助手がやや多くなっているようであるが、ほぼ、配布した割合と変わらない。

*注1 分野別の部局は下記の通り

医系： 医、歯、病院、薬、獣医、遺制研、医短

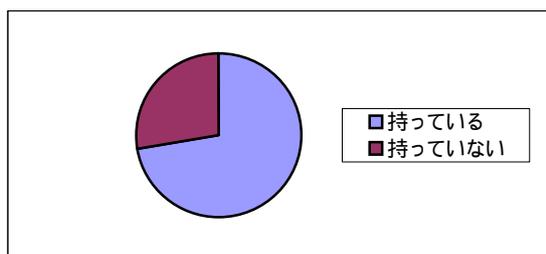
文系： 文、教育、法、経済、言文、国広メ、スラ研、留学セ、高機セ、博物館、知的財産

理工系： 理、工、農、水産、地環、情報科学、低温研、電子研、触媒研、情基セ、先端研、量子集積セ、北方圏、創成科学

情報の発信に関するアンケート調査(分析) * Q1 電子的学术情報の保持状況 *

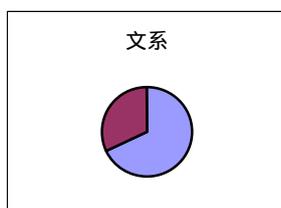
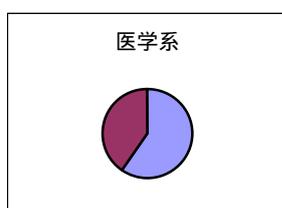
Q1 有無(全体)

	回答数	回答率
持っている	336	72.1%
持っていない	130	27.9%
合計	466	100.0%



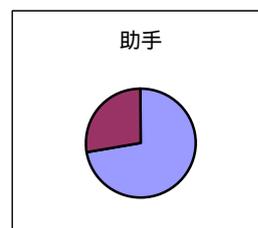
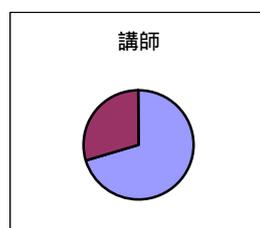
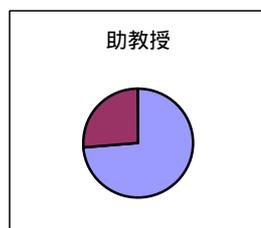
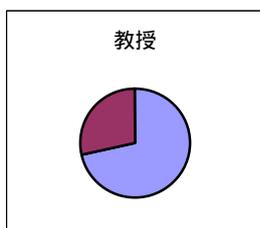
Q1 有無(分野別)

	医学系	文系	理工系
持っている	95	40	201
持っていない	65	19	46
合計	160	59	247



Q1 有無(身分別)

	教授	助教授	講師	助手
持っている	107	100	19	104
持っていない	43	36	8	40
合計	150	136	27	144



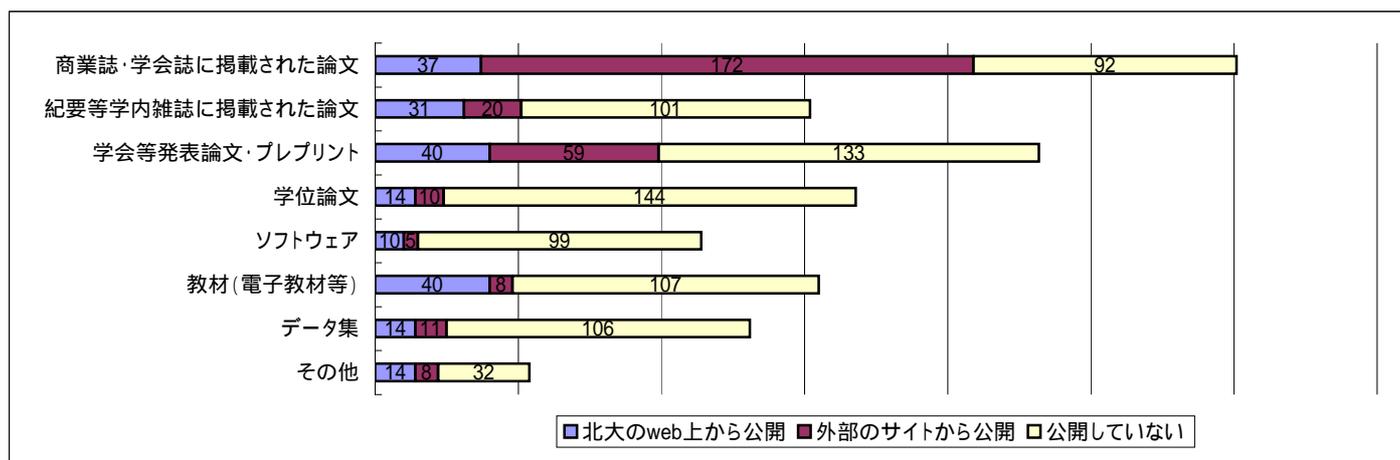
Q1 電子学术情報保持の有無について

- ・72%の先生が電子学术情報を自分で持っていることが分かった。
- ・保持状況を分野別で見ると、保持率は、医学系が少なく、理工系が多い傾向である。
- ・保持状況を身分別で見ると、ほぼ、割合が変わらない。

情報の発信に関するアンケート調査(分析) * Q1 電子学術情報の保持状況 *

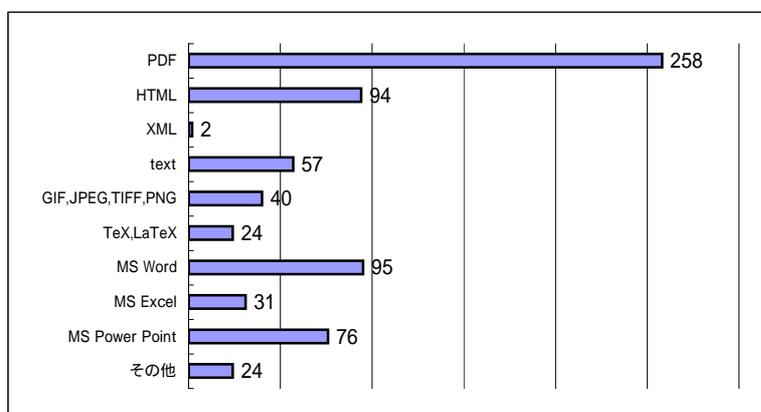
Q1 保持データの種類・公開状況(全体) 電子的学術情報を「持っている」と回答した方(336人)が回答(複数回答)

	北大のweb 上から公開	外部のサイ トから公開	公開して いない	合計
商業誌・学会誌に掲載された論文	37	172	92	301
紀要等学内雑誌に掲載された論文	31	20	101	152
学会等発表論文・プレプリント	40	59	133	232
学位論文	14	10	144	168
ソフトウェア	10	5	99	114
教材(電子教材等)	40	8	107	155
データ集	14	11	106	131
その他	14	8	32	54



Q1 保持データ形式(全体) (複数回答)

	回答数	回答/336
PDF	258	76.8%
HTML	94	28.0%
XML	2	0.6%
text	57	17.0%
GIF,JPEG,TIFF,PNG	40	11.9%
TeX,LaTeX	24	7.1%
MS Word	95	28.3%
MS Excel	31	9.2%
MS Power Point	76	22.6%
その他	24	7.1%



Q1 保持している電子学術情報の種類・データ形式について

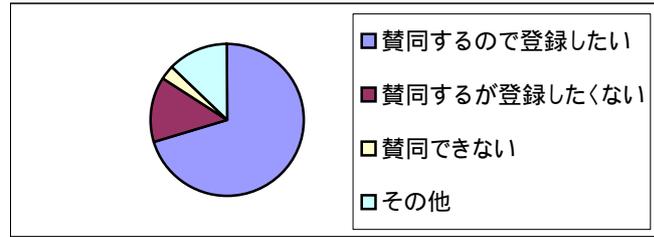
- ・保持データの種類は、「商業誌・学会誌に掲載された論文」が最も多く、「学会発表論文・プレプリント」、「学位論文」と続いた。
- ・「商業誌・学会誌に掲載された論文」は「外部のサイトから公開」されている割合が最も高く、他の種類の情報はすべて「公開していない」割合が最も高い。
- ・データ形式は「PDF」が圧倒的に多く、電子的学術情報を持っている人のうち77%の人が回答した。「HTML」「MS Word」「Power Point」と続いている。
- ・その他の形式としては、Postscript、映像(WMV、MPG等)、ソフトウェア、ファイルメーカーが3件、C言語ファイル、一太郎が2件、Word Pro、KeyNote、Adobe Indesign、Adobe Illustrator、Lotus1-2-3、文献データベース(MySQLによるWeb検索)が1件だった。

KeyNote: Macintosh用スライド作成ができるプレゼンテーション資料作成ソフト

情報の発信に関するアンケート調査(分析) * Q3 学術機関リポジトリ *

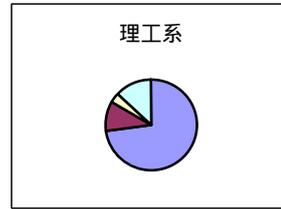
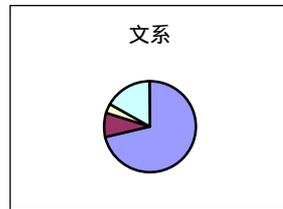
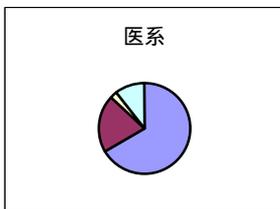
Q3 回答 (全体)

	回答数	回答率
賛同するので登録したい	328	70.4%
賛同するが登録したくない	64	13.7%
賛同できない	15	3.2%
その他	59	12.7%
総計	466	100.0%



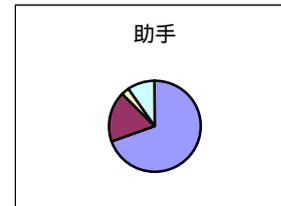
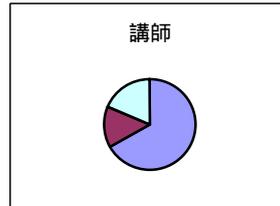
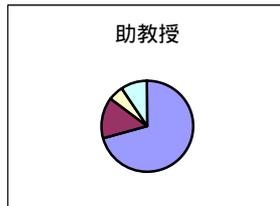
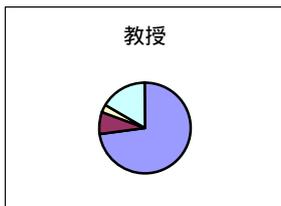
Q3 回答 (分野別)

	医系	文系	理工系
賛同するので登録したい	106	42	180
賛同するが登録したくない	33	5	26
賛同できない	4	2	9
その他	17	10	32
総計	160	59	247



Q3 回答 (身分別)

	教授	助教授	講師	助手
賛同するので登録したい	109	96	18	100
賛同するが登録したくない	12	20	4	26
賛同できない	4	7		4
その他	25	13	5	14
総計	150	136	27	144



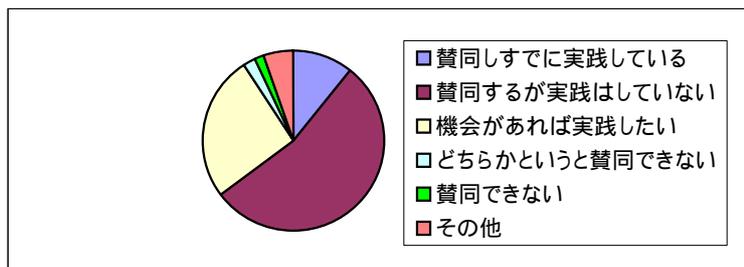
Q3 学術機関リポジトリについて

- ・「賛同するので登録したい」と答えた割合は、全体で70%にのぼり、高い支持率であることが分かった。
- ・「賛同できない」「賛同するが登録したくない」の割合は、分野別では「医系」が、身分別では「講師」「助手」が高めである。
- ・「その他」は、約半数が条件付きで登録したい、約40%が現時点では判断できない、残り約10%が否定的な意見だった。
- ・上記の「条件付きで登録しても良い」が多かったのは、登録内容を選べるならが8件、負担が少ないならが7件、著作権がクリアならあるいは著作権を図書館でクリアしてくれるならが5件だった。
- ・「判断できない」は、分からない、より詳しい情報を知ってからでなくては賛同・登録できないが多かった。
- ・否定的な意見は、「電子情報公開に関する公的なプロジェクトが多すぎる。効果的に統一することが経費節減や研究者の労力の減少につながる。結局、Googleのような検索エンジンが現在ではもっとも利用しやすい。このような現実をふまえての検討が必要。」ほか、方法に関する詳細な内容を理解できない、現状で何も問題はない、電子化する手間をかけるのは嫌、という意見があった。
- ・「信頼性のあるデータ等については公開・登録にはポジティブであるが、信頼性が疑わしいものが乱発されることが心配。」
- ・「賛同するので、提供した電子的学術情報をWeb上で見やすいように編集し登録作業を行って欲しい。サーバーを設置するだけではなく、学術情報の書式を整えるなどの編集、登録作業をする人材、部署も配置されることが必要」との意見もあった。

情報の発信に関するアンケート調査(分析) * Q2 オープンアクセス *

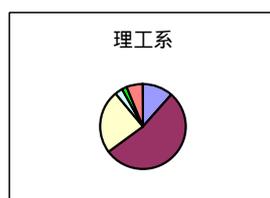
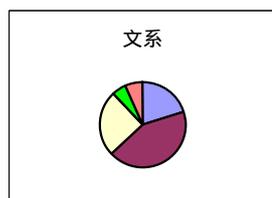
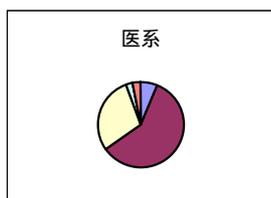
Q2 回答 (全体)

	回答数	回答率
賛同しすでに実践している	51	10.9%
賛同するが実践はしていない	250	53.6%
機会があれば実践したい	122	26.2%
どちらかという賛同できない	11	2.4%
賛同できない	8	1.7%
その他	24	5.2%
合計	466	100.0%



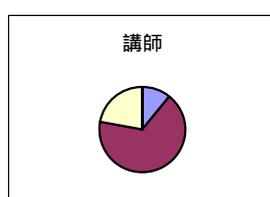
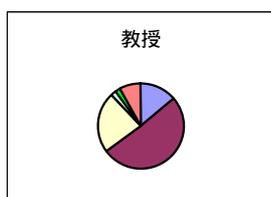
Q2 回答 (分野別)

	医系	文系	理工系
賛同しすでに実践している	10	12	29
賛同するが実践はしていない	94	25	131
機会があれば実践したい	47	15	60
どちらかという賛同できない	4		7
賛同できない		3	5
その他	5	4	15
総計	160	59	247



Q2 回答 (身分別)

	教授	助教授	講師	助手
賛同しすでに実践している	21	17	3	10
賛同するが実践はしていない	76	72	18	79
機会があれば実践したい	35	28	6	50
どちらかという賛同できない	3	6		1
賛同できない	3	4		1
その他	12	9		3
総計	150	136	27	144



Q2 オープンアクセスについて

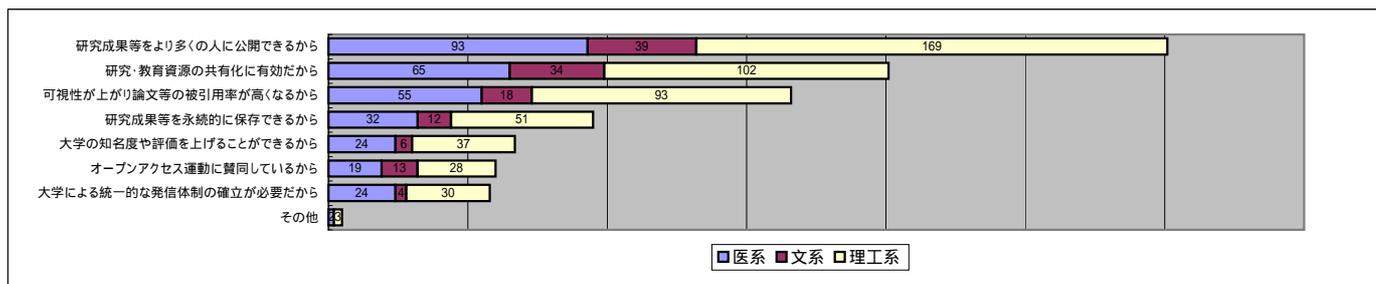
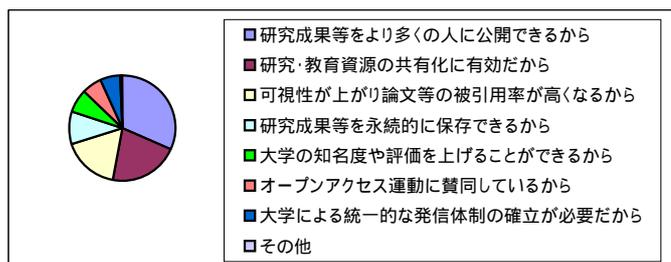
- ・「賛同しすでに実践している」「賛同するが実践はしていない」「機会があれば実践したい」を合わせると、全体で91%だった。
- ・上記を分野別で見ると、医学系で92%、文系88%、理工系90%で、差が無く、高い割合でOAの意義が認められている。
- ・上記を身分別で見ると、教授88%、助教授86%も高いが、講師100%、助手97%は大変高い割合となっている。

- ・「その他」の意見は、「内容についてのcheck機関がないと、発信者の都合の良い情報のみが出され、学術データの捏造等のトラブルを促進するため」賛同できない、「OA導入が出版社の減収につながるなら、学術雑誌の質の維持・向上に支障をきたすことが予想されるため導入は慎重に行う必要がある」「学会などの運営に不利益にならない範囲との限定付きで賛同する」があった。
- ・「その他」の残りは、半分強(11件)が著作権やデータの内容により公開できるものとできないものがある等の条件付きでの賛同、半分弱(9件)が現時点では判断できないという意見だった。

情報の発信に関するアンケート調査(分析) * Q4-1 学術機関リポジトリに登録したい理由 *

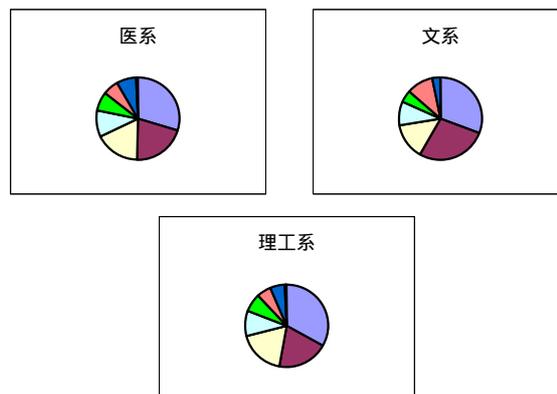
Q4-1 回答 (全体) Q3で「賛同するので登録したい」と答えた方(328人)が回答 (複数回答)

	回答数	回答/328
研究成果等をより多くの人に公開できるから	301	91.8%
研究・教育資源の共有化に有効だから	201	61.3%
可視性が上がり論文等の被引用率が高くなるから	166	50.6%
研究成果等を永続的に保存できるから	95	29.0%
大学の知名度や評価を上げることができるから	67	20.4%
オープンアクセス運動に賛同しているから	60	18.3%
大学による統一的な発信体制の確立が必要だから	58	17.7%
その他	5	1.5%



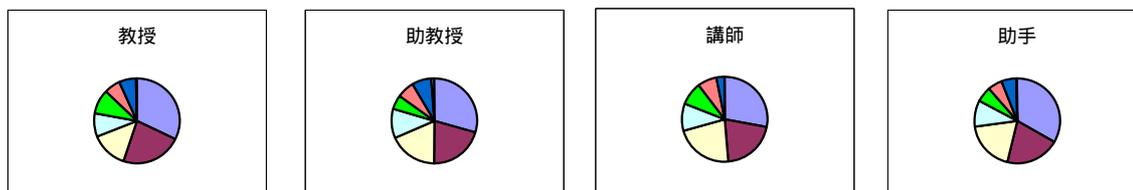
Q4-1 回答 (分野別)

	医系	文系	理工系
研究成果等をより多くの人に公開できるから	93	39	169
研究・教育資源の共有化に有効だから	65	34	102
可視性が上がり論文等の被引用率が高くなるから	55	18	93
研究成果等を永続的に保存できるから	32	12	51
大学の知名度や評価を上げることができるから	24	6	37
オープンアクセス運動に賛同しているから	19	13	28
大学による統一的な発信体制の確立が必要だから	24	4	30
その他	2		3



Q4-1 回答 (身分別)

	教授	助教授	講師	助手
研究成果等をより多くの人に公開できるから	106	82	19	90
研究・教育資源の共有化に有効だから	74	57	14	54
可視性が上がり論文等の被引用率が高くなるから	46	51	15	52
研究成果等を永続的に保存できるから	29	31	7	27
大学の知名度や評価を上げることができるから	31	15	6	15
オープンアクセス運動に賛同しているから	20	19	5	15
大学による統一的な発信体制の確立が必要だから	21	20	2	15
その他	1	3		1



Q4-1 学術機関リポジトリに登録したい理由

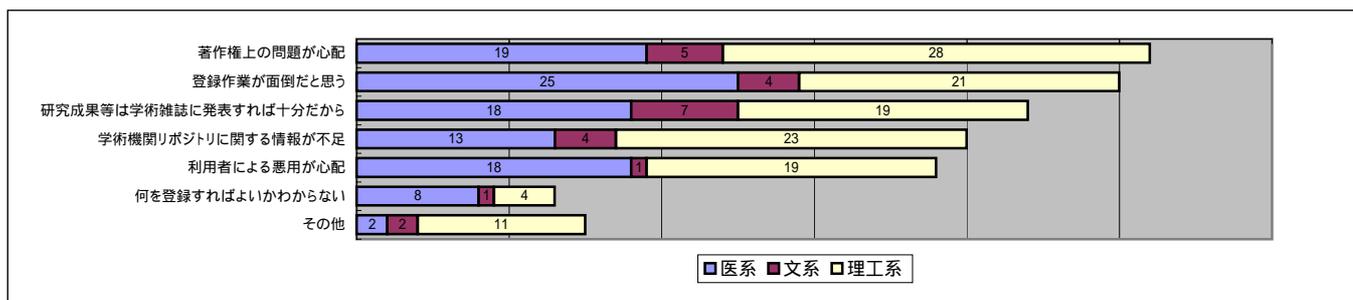
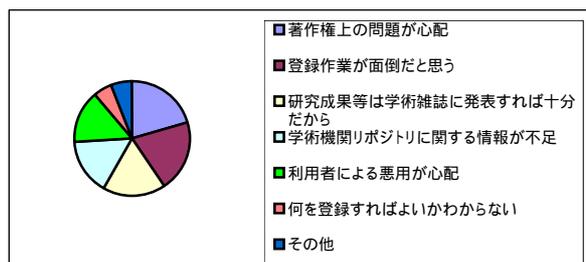
・「研究成果等をより多くの人に公開できるから」は、全体でも、分野別でも身分別でも、最も多かった。
 ・次いで、「研究・教育資源の共有化に有効だから」と「可視性が上がり論文等の被引用率が高くなるから」が多かった。

・「その他」は5件のみであったが、「別刷請求に対する返事が簡単」「自分自身でも便利(出張時などの場合に)」「本来、学術論文の使用権は出版社ではなく、著者個人に帰属すべきであると思うから」「WEBは、基本的に世界的な統一言語と考えているので、そのWEBの発表様式により大きな社会還元(一般も含む)ができそうだから。」「個人的にはMITのOCWを目指すべきではないか」という意見があった。

情報の発信に関するアンケート調査(分析) * Q4-2 学術機関リポジトリに登録したくない理由 *

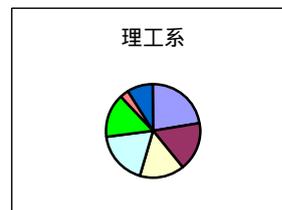
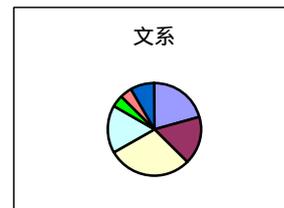
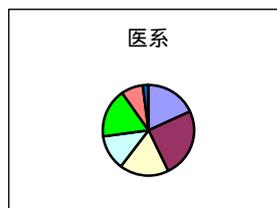
Q4-2 回答(全体) Q3で「賛同するが登録したくない」または「賛同できない」と答えた方(79人)が回答(複数回答)

	回答数	回答/79
著作権上の問題が心配	52	65.8%
登録作業が面倒だと思う	50	63.3%
研究成果等は学術雑誌に発表すれば十分だから	44	55.7%
学術機関リポジトリに関する情報が不足	40	50.6%
利用者による悪用が心配	38	48.1%
何を登録すればよいかわからない	13	16.5%
その他	15	19.0%



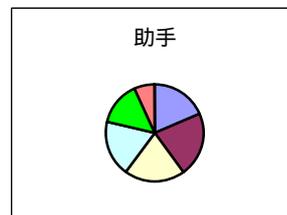
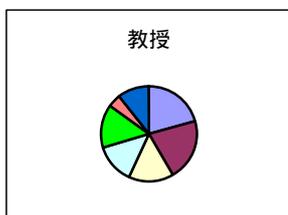
Q4-2 回答(分野別)

	医系	文系	理工系
著作権上の問題が心配	19	5	28
登録作業が面倒だと思う	25	4	21
研究成果等は学術雑誌に発表すれば十分だから	18	7	19
学術機関リポジトリに関する情報が不足	13	4	23
利用者による悪用が心配	18	1	19
何を登録すればよいかわからない	8	1	4
その他	2	2	11



Q4-2 回答(身分別)

	教授	助教授	講師	助手
著作権上の問題が心配	14	20	3	14
登録作業が面倒だと思う	14	16	3	16
研究成果等は学術雑誌に発表すれば十分だから	10	17	2	15
学術機関リポジトリに関する情報が不足	9	13	3	14
利用者による悪用が心配	10	12	4	11
何を登録すればよいかわからない	3	3	2	5
その他	7	6	2	



Q4-1 学術機関リポジトリに登録したくない理由

・「著作権上の問題が心配」「登録作業が面倒」が多く、学術機関リポジトリに賛同できない、あるいは、賛同するが登録したくないと答えた方の60%以上が理由として選択しているが、「研究成果等は学術雑誌に発表すれば十分だから」「学術機関リポジトリに関する情報が不足」「利用者による悪用が心配」も多く、まんべんなく不安材料が挙げられているようである。

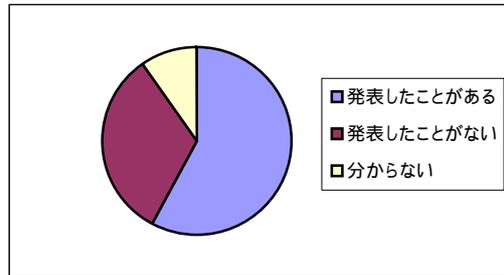
・「その他」は、登録者の負担が増えるのが心配が5件、作業量に見合うだけの価値があるのか疑問が4件、発信する情報の質を保证するシステムがない情報は有害が2件、学術商業出版社の存続に不安が2件のほか、有料にすべきという意見が1件あった。

「米英がデータ公開を促進するのは、自国の国益を増すための戦略である。日本あるいは北海道大学の利益のための戦略が明確にならないうちは、データの積極的公開はあまり賛同できない。」という意見があった。

情報の発信に関するアンケート調査(分析) * Q5 green publisher での発表 *

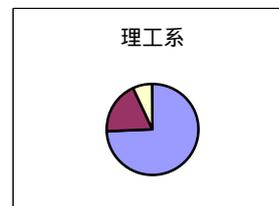
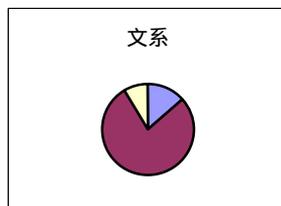
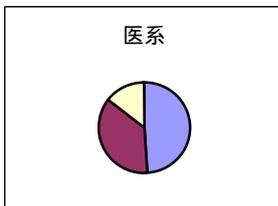
Q5 回答(全体)

	回答数	回答率
発表したことがある	269	57.7%
発表したことがない	152	32.6%
分からない	45	9.7%
合計	466	100.0%



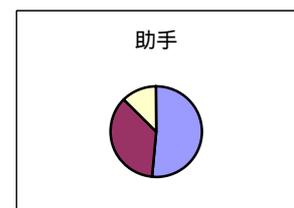
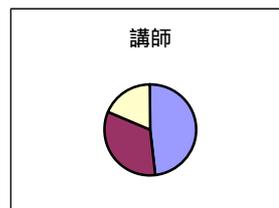
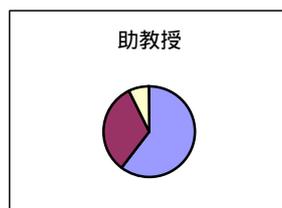
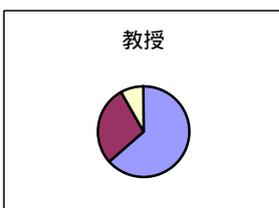
Q5 回答(分野別)

	医系	文系	理工系
発表したことがある	78	8	183
発表したことがない	59	46	47
分からない	23	5	17



Q5 回答(身分別)

	教授	助教授	講師	助手
発表したことがある	95	82	13	74
発表したことがない	43	44	9	52
分からない	12	10	5	18



Q5 green publisher での発表について

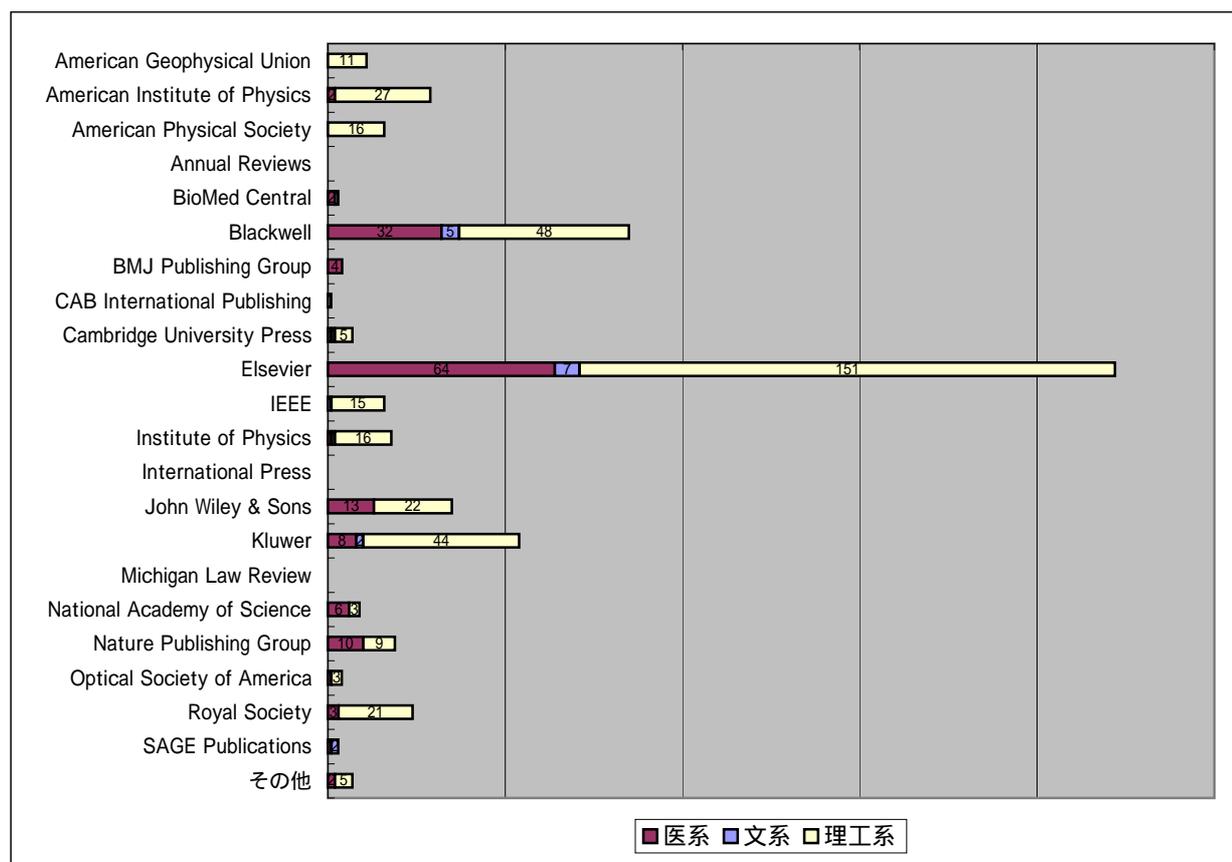
- ・58% がGreen Publisherに論文を発表したことがあるという結果であった。
- ・分野別に見ると、理工系では74%の方が発表したことがあるという高い結果だった。医系は49%、文系は14%だった。
- ・身分別に見ると、教授・助教授が多く、講師・助手が少なかった。

* green publisher : ポストプリント(査読済み論文)をセルフアーカイビングすることを認めている出版社のこと。

情報の発信に関するアンケート調査(分析) * Q5 green publisher での発表 *

Q5 回答 green publisherに論文を発表したことがあると回答した方(269人)が回答 (複数回答)

発表したことがある出版社	医系	文系	理工系	回答数	回答/269
American Geophysical Union			11	11	4.1%
American Institute of Physics	2		27	29	10.8%
American Physical Society			16	16	5.9%
Annual Reviews				0	0.0%
BioMed Central	2		1	3	1.1%
Blackwell	32	5	48	85	31.6%
BMJ Publishing Group	4			4	1.5%
CAB International Publishing			1	1	0.4%
Cambridge University Press	1	1	5	7	2.6%
Elsevier	64	7	151	222	82.5%
IEEE		1	15	16	5.9%
Institute of Physics	1	1	16	18	6.7%
International Press				0	0.0%
John Wiley & Sons	13		22	35	13.0%
Kluwer	8	2	44	54	20.1%
Michigan Law Review				0	0.0%
National Academy of Science	6		3	9	3.3%
Nature Publishing Group	10		9	19	7.1%
Optical Society of America	1		3	4	1.5%
Royal Society	3		21	24	8.9%
SAGE Publications	1	2		3	1.1%
その他	2		5	7	2.6%



Q5 green publisher での発表について2

・とびぬけてElsevierが多く、Green Publisherに発表したことがあると回答した方のうち83%の方がElsevierで発表したことがあるという結果であった。

情報の発信に関するアンケート調査(分析) * 連絡の可否 *

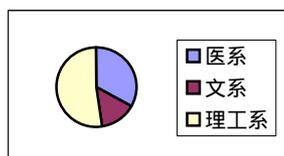
連絡してもいいですか？

	回答数	回答率
はい	164	35.2%
いいえ	140	30.0%
空白	162	34.8%
合計	466	100.0%

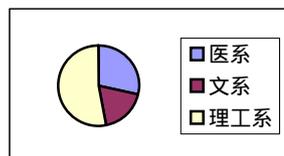


「はい」(分野別)

	回答数	割合
医系	54	32.9%
文系	24	14.6%
理工系	86	52.4%
全体	164	100.0%



回答の割合

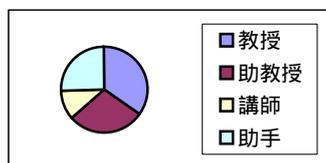


配布した割合

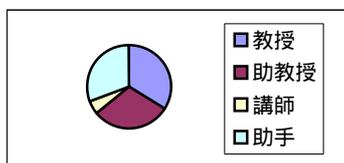
	配布数
医系	612
文系	393
理工系	1137
全体	2142

「はい」(身分別)

	回答数	割合
教授	57	34.8%
助教授	47	28.7%
講師	18	11.0%
助手	42	25.6%
合計	164	100.0%



回答の割合

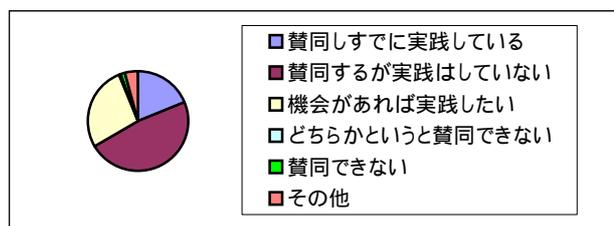


配布した割合

	配布数
教授	724
助教授	646
講師	114
助手	658
合計	2142

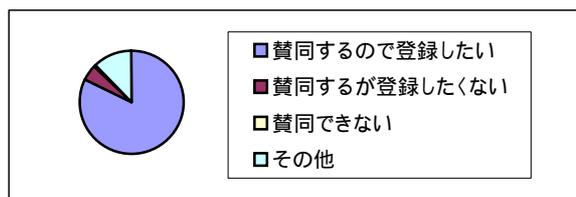
「はい」(Q2:オープンアクセスについて)

	回答数	割合
賛同しすでに実践している	31	18.9%
賛同するが実践はしていない	78	47.6%
機会があれば実践したい	45	27.4%
どちらかという賛同できない	1	0.6%
賛同できない	2	1.2%
その他	7	4.3%
合計	164	100.0%



「はい」(Q3:学術機関リポジトリについて)

	回答数	割合
賛同するので登録したい	135	82.3%
賛同するが登録したくない	8	4.9%
賛同できない	1	0.6%
その他	20	12.2%
合計	164	100.0%



連絡してもよいかについて

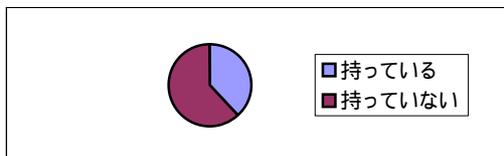
- ・35%以上の164人の方が「もう少し詳しくご意見をお伺いするためにご連絡してもよろしいですか？」に「はい」と答えた。
- ・学術機関リポジトリについての「その他」には、「信頼性のあるデータ等については公開・登録にはポジティブであるが、信頼性が疑わしいものが乱発されることが心配される。」(地環研)、「賛同するので登録したいが、簡単な仕組みにして欲しい。(難しい仕組みなら、自前のサーバで公開するほうがラクなので)」(情報科学)、「登録したい考えはあるが、作業時間が取れない。」(地環研)、「学術機関リポジトリの詳細な内容によると思います。ある意味で Data 盗用の可能性があると思います。」(医)、「患者データなので困難な部分もある。」(歯)という意見等があった。
- ・「オープンアクセスにおける問題点の一つとして、公開データ中の著作権をクリアしていないものがあるかどうかの確認を誰がどのようにチェックし、著作者の承認を得る必要が生じた場合に、それを担当する組織があるかどうか、が問われるであろう。電子的にアーカイブを構築する際には、非電子的なデータの著作権の及ぶ範囲を越える制約が存在するので、それを制度的に一元管理できる体制が欠かせない、という問題点があるということです。」(基盤セ)、「未発表の論文の場合、Web上に掲載しても、数週間おきに一部書きかえて新しいファイルを再掲載したりします。個人のWebページだとこの改訂が簡単なのですが、大学で管理するリポジトリでも簡単にできるのでしょうか？」(経済)という意見があった。
- ・「図書館担当者の負担は相当大きくなる内容の仕事かと思うが、ぜひやってほしい。」という意見もあった。

参考資料： 配布範囲外(院生等)回答内容について

平成16年12月20日現在で、508枚集まった。このうち教員からは466枚で、院生・学生等からの回答は42枚であった。これは、ポスター横に置いたアンケート用紙や、部局図書室の方が勧めて下さったためである。所属などに偏りがあるため、参考資料としてここにまとめる。

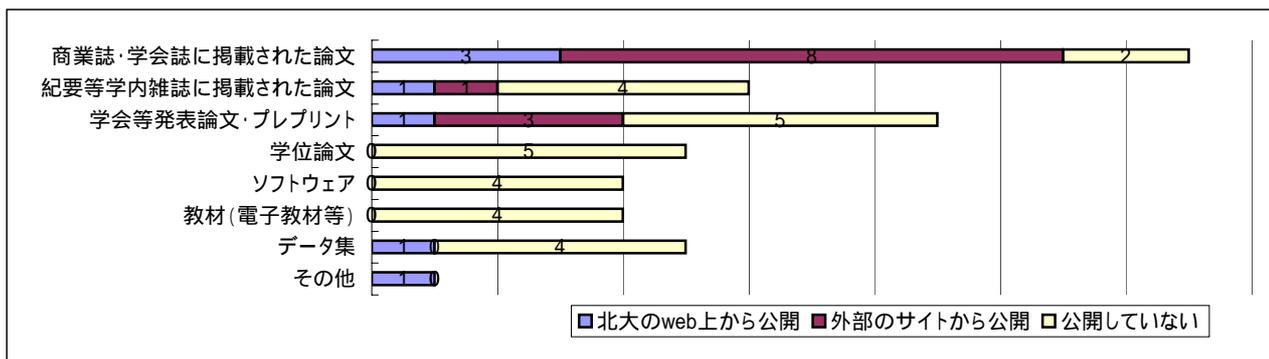
Q1 保持の有無

	回答数	回答率
持っている	16	38.1%
持っていない	26	61.9%
合計	42	100.0%



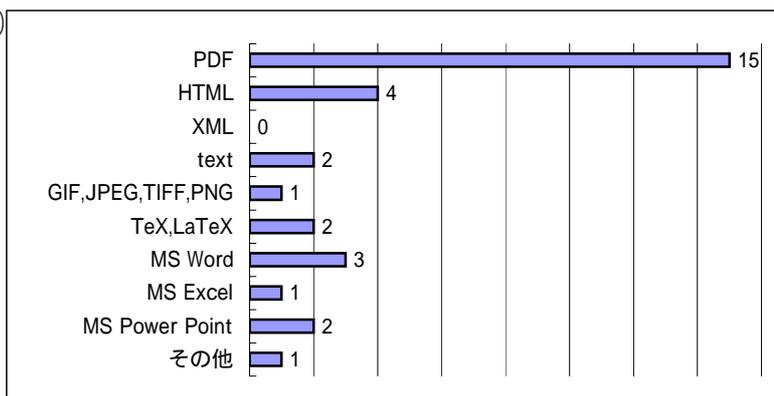
Q1 保持データの種類・公開状況 (全体) (複数回答)

	北大のweb上から公開	外部のサイトから公開	公開していない	合計
商業誌・学会誌に掲載された論文	3	8	2	13
紀要等学内雑誌に掲載された論文	1	1	4	6
学会等発表論文・プレプリント	1	3	5	9
学位論文			5	5
ソフトウェア			4	4
教材(電子教材等)			4	4
データ集	1		4	5
その他	1			1



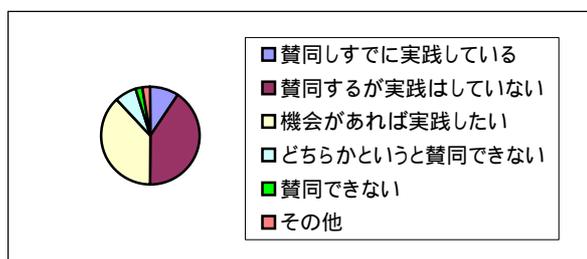
Q1 保持データ形式 (複数回答)

	回答数	割合
PDF	15	93.8%
HTML	4	25.0%
XML	0	0.0%
text	2	12.5%
GIF,JPEG,TIFF,PNG	1	6.3%
TeX,LaTeX	2	12.5%
MS Word	3	18.8%
MS Excel	1	6.3%
MS Power Point	2	12.5%
その他 (PostScript)	1	6.3%



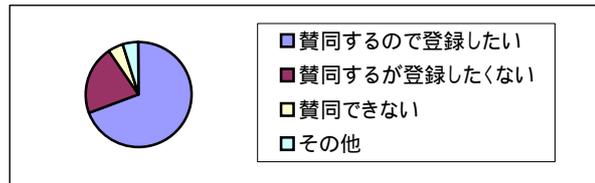
Q2 オープンアクセスについて (複数回答)

	回答数	回答率
賛同しすで実践している	4	9.5%
賛同するが実践はしていない	17	40.5%
機会があれば実践したい	16	38.1%
どちらかという賛同できない	3	7.1%
賛同できない	1	2.4%
その他 (知らない)	1	2.4%
合計	42	100.0%



Q3 学術機関リポジトリについて (複数回答)

	回答数	回答率
賛同するので登録したい	29	69.0%
賛同するが登録したくない	9	21.4%
賛同できない	2	4.8%
その他	2	4.8%
総計	42	100.0%



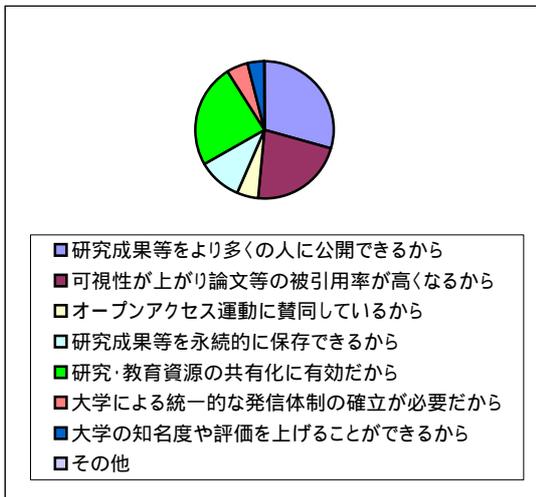
* その他の意見には「より詳しい情報を知ってからでなくては賛同・登録できない。」というものがあつた。

Q4-1 学術機関リポジトリに登録したい理由

(複数回答)

	回答数
研究成果等をより多くの人に公開できるから	23
研究・教育資源の共有化に有効だから	19
可視性が上がり論文等の被引用率が高くなるから	17
研究成果等を永続的に保存できるから	8
大学の知名度や評価を上げることができるから	3
オープンアクセス運動に賛同しているから	4
大学による統一的な発信体制の確立が必要だから	4
その他	0

(項目順は教官の回答数順に準ずる)

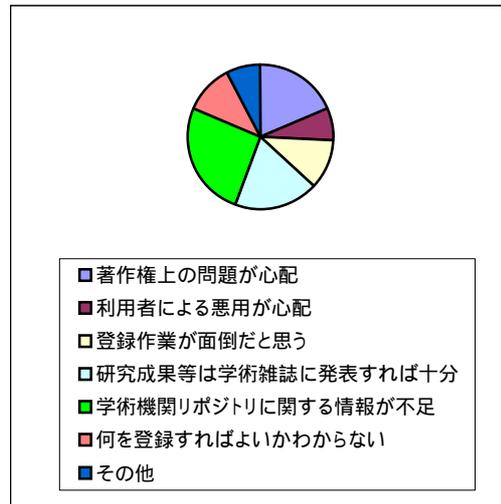


Q4-2 学術機関リポジトリに登録したくない理由

(複数回答)

	回答数
著作権上の問題が心配	5
登録作業が面倒だと思う	3
研究成果等は学術雑誌に発表すれば十分	5
学術機関リポジトリに関する情報が不足	7
利用者による悪用が心配	2
何を登録すればよいかわからない	3
その他	2

(項目順は教官の回答数順に準ずる)



Q5 green publisher での発表

	回答数	
発表したことがある	8	19.0%
発表したことがない	28	66.7%
分からない	6	14.3%
合計	42	100.0%



Q5 発表したことがある出版社 (複数回答)

発表したことがある出版社 (複数回答可)	回答数
American Geophysical Union	
American Institute of Physics	2
American Physical Society	1
Annual Reviews	
BioMed Central	
Blackwell	1
BMJ Publishing Group	
CAB International Publishing	1
Cambridge University Press	1
Elsevier	3
IEEE	

	回答数
Institute of Physics	
International Press	
John Wiley & Sons	1
Kluwer	
Michigan Law Review	
National Academy of Science	
Nature Publishing Group	
Optical Society of America	1
Royal Society	1
SAGE Publications	
その他	